

**DH SYSTEM**

大日本塗料株式会社

商品番号 1755

タイエンダー上塗F

1. 一般名 厚膜形ふっ素樹脂上塗塗料 弱溶剤形
2. 規格 社内規格
3. 特徴
- 1) 耐候性、光沢保持性、耐汚染性にすぐれている。
 - 2) 塗膜の光沢がよく、肉持感がすぐれている。
 - 3) 厚塗性の塗料で、中塗と上塗を兼用することができる。
 - 4) 弱溶剤使用のため、臭気等も少なく、塗装作業環境を改善できる。
 - 5) 特定化学物質障害予防規則（特化則）非該当

4. 塗料性状

項目	内容					
容姿	2液性					
荷姿	16kgセット(主剤:14.4kg、硬化剤:1.6kg) 4kgセット(主剤:3.6kg、硬化剤:0.4kg)					
色相	各色					
光沢	つや有り					
密度 (23℃)	塗料	1.24 (白)				
	揮発分	0.80				
加熱残分	66% (白)					
乾燥時間	温度	0℃	5℃	20℃	30℃	40℃
	指触	3時間	2時間	1時間	30分	20分
	半硬化	18時間	16時間	8時間	6時間	5時間
標準膜厚	55μm					
引火点	SDS参照					
発火点	SDS参照					
爆発限界(下限~上限)	SDS参照					

上記塗料性状の数値は標準を示すものであり、若干の変動がある。

6. 施工上の注意

- (1) 被塗面の油、湿気、じんあい、水分、その他の有害な付着物は完全に除去する。
- (2) 使用時には、主剤と硬化剤を規定の割合に混合し、十分に攪拌して均一な塗料状態にする。混合比を間違えると十分に塗膜性能を発揮しないばかりか、塗膜が硬化しないことがある。
- (3) 主剤と硬化剤を混合した後は、可使用時間以内に使い尽くすこと。
- (4) 希釈には必ず塗料用シンナー又は塗料用シンナーAを使用すること。
- (5) 低温環境下においては、被塗面に結露・結氷を生じやすく、塗膜の付着性が損なわれる原因となる。露点管理を実施するなど被塗面の状態を確認した上で塗装作業を行うこと。
- (6) 低温環境下においては、乾燥前に結露や降雨の影響を受けると、塗料の流失、表面の凹凸の発生や艶引け、変色等の不具合の原因となるため、降雨、降雪等の影響を受けないよう、シート等を用いた養生や気温が低下する夜間に、結露・結氷が生じないようにすることが必要である。
- (7) 低温環境下においては、塗り重ねを行う際は、指触で塗膜の乾燥状態を確認するか、一部に試験塗装を行い、その結果に基づいて、塗り重ねの可否を決めることが望ましい。特に、塗装後、気温が低下する夜間に極低温状態になった場合、硬化反応が遅くなるため、十分な注意が必要である。塗装後、0℃以下の環境に長期間曝される場合、塗面上の歩行は避けること。

5. 塗装基準

項目	内容					
下地処理	—					
調合法	主剤:90部、硬化剤:10部 (重量比)					
可使用時間	0℃	5℃	20℃	30℃	40℃	
	9時間	8時間	5時間	3時間	2時間	
温度・湿度制限	気温:0℃未満、湿度:85%RH以上 但し被塗物表面に結露・結氷が無いこと					
使用シンナー	塗料用シンナー又は塗料用シンナーA					
塗装方法	塗装方法	刷毛・ローラー塗装			エアレス塗装	
	希釈率	5~10%			10~15%	
	標準使用量	0.18 kg/m ²			0.23 kg/m ²	
	標準膜厚	55μm			55μm	
エアレス塗装条件	ウェット管理膜厚	125μm			125μm	
	1次圧	0.4~0.5MPa (4~5 kg/cm ²)				
2次圧	11~15MPa (110~150 kg/cm ²)					
	チップNo.163-515~617					
塗装間隔	温度	0℃	5℃	20℃	30℃	40℃
	最小	24時間	24時間	16時間	12時間	10時間
	最大	7日	7日	7日	7日	5日

注) 標準使用量は被塗物の形状や塗装条件によって異なる。

7. 関連法規

	主 剤	硬 化 剤
危険物表示	第4類第2石油類	第4類第2石油類
有機溶剤区分	第3種有機溶剤含有物	第3種有機溶剤含有物
有害物質表示	SDS参照	SDS参照
劇物表示	—	—

8. 使用上の注意【警告】

- (1) 安全情報に関する内容は、SDSをご参照下さい。

使用上の注意の詳細は容器のラベルに表示。